

巻頭言

昨年5月に新型コロナウイルス感染症がインフルエンザと同類の5類に引き下げられ、社会経済活動がコロナ禍前に戻りつつあります。本学におきましても、授業時間割を以前の状態に戻して通常の対面授業や研究室活動を行い、また学術講演会を含む各種イベントを学内キャンパスで実施するなど、大学活動が活気づいてきたことを実感しております。

さて、その大学活動ですが、教育、研究、社会貢献から成っています。教育と社会貢献の活動を論文の形で発表できる場は極めて少ないのが実情です。一方、研究については、その成果を学術出版社や学会等が発行する学術誌に発表するのが一般的ですが、分野によっては関連する学術誌が少なく自身の研究内容に相応しい学術誌が見当たらない場合もあります。このように論文発表が困難な活動の場合、紀要はその発表の場として重要な役割を演じることになります。さらに地域を対象とした各種活動の場合は、一般的な学術誌よりもむしろ紀要の方が注目度は高いので、情報発信力の強い発表の場として、紀要を積極的に活用することをお勧めします。

本巻には、3編の研究論文と4編の活動報告が掲載されております。研究論文のうち1編は査読を経た論文として掲載されています。今回、特集テーマは組まれていませんが、活動報告の3編は2016年に立ちあげられた「里山工学プロジェクト」に関するものです。本学の工学技術を里山の再生と地域社会の発展に用いることで、未来の里山を再構築することを目的としたプロジェクトです。昨年9月には本学で第一回目のシンポジウムも開催されるなど、着実に進展しているプロジェクトの一つです。本巻には他にも、教育や地域活性化に関する活動が報告されています。

本巻の記事を通じて、本学の活動の一端を知っていただければ幸いに存じます。

学長 蝶野成臣

高知工科大学紀要

目次

研究論文

1. 企業家の意思決定と企業の成長の結びつき：株式会社技研製作所の事例研究
(査読あり論文)
石谷 康人
2. 共創（コ・クリエーション）から生まれる地域活性化
— 高知市さえんば商店街の事例から —
佐藤 暢
3. レポート作成指導による初年次学生の読み手意識への影響
田中 光

活動報告：里山基盤科学技術の社会実装モデルプロジェクト 2022

4. 里山研究フィールドにおける鳥類相の季節変化
谷岡 仁, 村井 亮介, 高木 方隆
5. 土嚢袋と木灰コンクリートを用いた石積みの検討
曾我部 蓮太, 綿貫 開, 高木 方隆, 村井 亮介
6. 耕作放棄地における竹を活用した水路の設計・施工
伊藤 優汰, 藤原 崇真, 牧田 貴一, 若吉 慧門, 高木 方隆, 村井 亮介

活動報告

7. 起業工学研究室における10年間の教育研究活動
石谷 康人

Kochi University of Technology Research Bulletin

Contents

Research Articles

1. The Link between Entrepreneurial Decision-making and Corporate Growth:
A Case Study of Giken Ltd. (Peer-reviewed Paper)
Yasuto Ishitani
2. A Regional Development and Vitalization Activity Arising from Co-creation
— The Case Study from Saemba Shopping District in Kochi —
Masato Sato
3. Effect on First-year Students' Reader Awareness through Report-writing Instruction
Hikaru Tanaka

Activity Reports: Implementation of Science and Technology for “Satoyama” 2022

4. The Seasonal Changes of Avifauna in SATOYAMA Research Field
Hitoshi Tanioka, Ryosuke Murai, Masataka Takagi
5. Study of Masonry using Sandbags and Wood Ash Concrete
Renta Sokabe, Haruki Watanuki, Masataka Takagi, Ryosuke Murai
6. Report on the Utilization of Abandoned Farmland in Satoyama Areas
Yuta Ito, Soma Fujiwara, Kiichi Makita, Emon Wakayaso, Masataka Takagi,
Ryosuke Murai

Activity Report

7. Entrepreneur Engineering Laboratory: Report on Education and Research Activities from
2014 to 2023
Yasuto Ishitani